

一般・消化器外科

1. スタッフ (2024年4月1日現在)

科 長 (教授)	力山 敏樹
医 員 (教授)	鈴木 浩一 (がん診療運営部外来化学療法室長)
	野田 弘志
	池田 太郎 (周産期科)
医局長 (助教)	市田 晃佑
病棟医長 (助教)	高山 裕司
医 員 (准教授)	遠藤 裕平 (講師)
	宮倉 安幸
	齊藤 正昭
	渡部 文昭
	蓬原 一茂
	武藤 雄太
	井上 亨悦
	福井 太郎
	阿部 郁
シニアレジデント	7名
大学院生	3名

2. 診療科の特徴

一般・消化器外科では、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛門、肝臓、胆道、脾臓、脾臓、ヘルニア、乳腺、甲状腺などの悪性疾患、良性疾患、腹部救急疾患に対する多岐にわたる外科治療を行っている。2014年に開設した小児外科は成長を続け、2024年には小児外科手術件数が147例、うち新生児手術が13例となった。低侵襲治療を目指した鏡視下手術も積極的に導入しており、3D腹腔鏡手術システムやロボット支援下手術による症例数も増加傾向にある。2024年にはロボット支援下での手術が57件（2023年：31件）行われた。

当科における手術症例数は、2008年に初めて1,000件を超えて以来、15年以上連続して1,000件を上回り、2024年の総手術件数は1,076件、うち緊急手術は141件であった。外来化学療法はのべ2,720人に対して行われ、これは診療科ごととして院内で最も多い数であった。がん遺伝子パネル検査を中心としたがんゲノム医療にも力を入れており、それぞれの患者ごと、腫瘍ごとの遺伝子変異や臨床的特徴に沿った薬物療法の提供を目指している。また、当科は多施設共同研究にも積極的に参加し、治療成績を学術報告する機会も増加している。

若手医師の教育と養成にも力を入れている。年間複数回のドライラボやウェットラボのトレーニングプログラムを実施し、若手医師の技術向上を図っている。現在大

学院生は3人であり、研究体制を充実させるとともに他の研究機関との共同研究も進めている。

さらに、当科は埼玉県内外に関連・派遣施設を複数有しており、地域医療に貢献している。研究面では、医師主導臨床試験や多施設共同研究を行い、論文発表も積極的に行っている。例えば、「合併症低減を目指した消化器外科術後腹部正中創の創閉鎖法の開発」などのテーマで臨床試験を実施し、研究成果を上げている。

3. 施設認定・専門医

日本外科学会：専門医制度修練施設
日本消化器外科学会：専門医修練施設
日本消化器病学会：専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会：専門医制度指導施設
日本消化管学会：胃腸科指導施設
日本大腸肛門病学会：大腸肛門病認定施設
日本食道学会：食道外科専門医修練施設
日本胃癌学会：認定施設A認定
日本肝胆脾外科学会：高度技能医修練施設A認定
日本肝臓学会：認定施設
日本胆道学会：指導施設
日本脾臓学会：認定施設
日本内分泌外科学会：認定施設
日本小児外科学会：教育関連施設
日本乳癌学会：認定・関連施設
日本臨床腫瘍学会：認定研修施設
日本がん治療認定医機構：認定研修施設

日本外科学会：専門医 28名、指導医 9名

日本消化器外科学会：認定医 2名、専門医 19名、指導医 10名

日本肝胆脾外科学会：高度技能専門医 3名、高度技能指導医 2名

日本内視鏡外科学会：技術認定取得 4名（消化器・一般外科領域）

日本消化器病学会：専門医 9名、指導医 3名

日本消化器内視鏡学会：専門医 4名、指導医 2名

日本大腸肛門病学会：専門医 2名、指導医 2名

日本小児外科学会：専門医 1名、指導医 1名

日本周産期・新生児医学会：認定外科医 1名

日本乳癌学会：認定医 1名

日本超音波医学会：指導医 1名

日本食道学会：食道科認定医 2名、食道外科専門医 2名

日本肝臓学会：専門医 6名、指導医 2名

日本胆道学会：指導医 3名
 日本脾臓学会：指導医 2名
 日本内分泌外科学会：専門医 1名
 日本消化管学会：専門医 2名、指導医 2名
 日本人類遺伝学会：臨床遺伝専門医 1名、臨床遺伝指導医 1名
 日本遺伝性腫瘍学会：遺伝性腫瘍専門医 1名、遺伝性腫瘍指導医 1名
 日本がん治療認定医機構：がん治療認定医 13名
 検診マンモグラフィ読影認定医 8名
 日本 ICD 制度協議会：インフェクションコントロールドクター (ICD) 3名
 米国消化器内視鏡外科学会：FUSE (Fundamental Use of Surgical Energy) 資格取得 1名
 日本ヘリコバクター学会：H. pylori 感染症認定医 1名

4. 診療内容

- ・食道：逆流性食道炎、良性食道腫瘍（開胸あるいは胸腔鏡下摘出）、早期食道癌（粘膜内）（内視鏡的治療：EMRおよびESD）、進行食道癌（3領域部郭清を伴う胸腔鏡下食道亜全摘術、血管吻合による空腸再建、化学療法、放射線療法、ステント挿入術）
- ・胃・十二指腸：潰瘍（出血や穿孔、狭窄）、早期胃癌（EMR・ESD、腹腔鏡手術）、進行癌（標準・拡大郭清根治手術、腹腔鏡手術、化学療法、免疫療法）、胃粘膜下腫瘍（腹腔鏡手術、開腹手術）
- ・小腸・大腸・肛門：クローン病（手術療法）、潰瘍性大腸炎（腹腔鏡補助下大腸全摘+回腸囊肛門（管）吻合）、結腸・直腸癌（粘膜切除、腹腔鏡補助下手術、ロボット支援下手術（直腸）、開腹手術、化学療法）、下部直腸癌（放射線化学療法、側方郭清、経肛門吻合）、痔核、痔瘻、直腸脱、その他の良性疾患
- ・肝臓：肝細胞癌（腹腔鏡・開腹肝切除、RFA、TACE、MCT）、転移性肝腫瘍（腹腔鏡手術、開腹手術）、胆管細胞癌（切除、放射線治療）、肝門部胆管癌（手術）
- ・胆囊・胆管：胆囊結石症（腹腔鏡手術）、胆管結石（腹腔鏡・開腹手術）、胆囊・胆管癌（手術、放射線治療）、胆管合流異常（手術）
- ・脾臓：慢性脾炎、仮性脾囊胞、脾癌（脾頭十二指腸切除、体尾部切除）、脾臓腫瘍（腹腔鏡手術、ロボット支援下手術、開腹手術）、脾粘液産生腫瘍（十二指腸温存脾頭切除）、脾分節切除
- ・乳腺：乳房温存手術+センチネルリンパ節生検+放射線療法、鏡視下乳腺部分切除、胸筋温存乳房切除、化学療法、ホルモン療法
- ・甲状腺・副甲状腺：腺腫、癌（全摘、亜全摘）、腎不全に伴う続発性副甲状腺機能亢進症（副甲状腺全摘+自家移植）
- ・副腎：褐色細胞腫を含む良性腫瘍（腹腔鏡手術）

- ・鼠径部ヘルニア、腹壁瘢痕ヘルニア：腹腔鏡手術 (TAPP)、従来法 (Mesh plug法、UHS法)
- ・急性虫垂炎（腹腔鏡手術）
- ・絞扼性腸閉塞、消化管穿孔、ヘルニア嵌頓、腸管壞死 (NOMI) などの緊急手術
- ・小児外科：ヘルニア、虫垂炎、その他

5. 診療実績・クリニカルインディケーター

- 1) 当科の入院患者数：計1,543人（前年度1,535人）
- 2) 主な手術症例件数および年次推移

	症例数				
	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
食道癌	9	9	7	13	8
胃癌					
幽門側胃切除 (内 腹腔鏡)	36 (18)	33 (15)	45 (28)	43 (18)	42 (17)
(内 ロボット)				(1)	(11)
胃全摘 (内 腹腔鏡)	20 (0)	14 (1)	16 (3)	23 (5)	12 (5)
(内 ロボット)					
その他	10	16	10	10	16
胃粘膜下腫瘍	7 (6)	8 (7)	13 (10)	12 (9)	9 (5)
小腸腫瘍	6	11	8	9	11
虫垂炎	25 (21)	31 (29)	26 (22)	14 (13)	12 (11)
結腸癌	113 (96)	116 (104)	117 (105)	123 (105)	122 (107)
直腸癌	64 (58)	75 (56)	67 (64)	72 (38)	56 (11)
(内 ロボット)				(24)	(37)
潰瘍性大腸炎	4	10	11	4	6
クローン病	2	2	4	2	4
痔疾患	25	20	19	9	14
肝癌					
原発性	14	11	14	24	22
転移性	20 (6)	14 (8)	21 (13)	8 (3)	12 (20)
(内 腹腔鏡)					
胆囊摘出術	88 (83)	70 (68)	61 (58)	49 (47)	52 (49)
胆管癌	8	10	15	12	24
十二指腸乳頭部癌	3	5	3	5	8
脾癌	44	28	38	36 (1)	34 (2)
その他脾腫瘍	9	16	10	10 (3)	14 (7)
副腎	9 (9)	4 (4)	14 (13)	10 (9)	10 (10)
乳癌	85	92	96	86	95
甲状腺腫瘍	49	53	53	47	58
上皮小体	9	15	14	23	16

ヘルニア 鼠径部 (内 腹腔鏡)	85 (35)	73 (40)	65 (28)	69 (29)	67 (21)
腹壁 (内 腹腔鏡)	21 (15)	18 (15)	11 (9)	11 (4)	14 (8)
小児外科 ヘルニア	25	50	45	33	42
虫垂炎	14	14	15	11	11
その他	9	84	92	112	94

3) カンファレンス

- ・術前症例検討会（週3回：月・水・金）
(隔週金曜日：英語プレゼンテーション)
- ・術後症例報告（週2回：火・木）
- ・病棟カルテ回診（週2回：火・木）
- ・消化器内視鏡症例検討会（週1回：火）
- ・消化器合同症例検討会（不定期）
- ・肝胆脾症例検討会（週1回：月）
- ・Morbidity and Mortality conference（月1回）
- ・リサーチカンファレンス（月1回）
- ・内分泌外科カンファレンス（月1回：火）
- ・乳腺甲状腺疾患検討会（不定期）
- ・乳腺疾患ケースカンファレンス（週1回：木）
- ・オンコロジーセンターカンファレンス（週2回：火・金）
- ・キャンサーボード（月1回：木）
- ・医局会（月1回：水）

4) 公的研究費取得実績

研究代表者	研究費	研究課題
力山敏樹 (研究責任医師)	公益法人 がん 集団的治療研究 財団(JFMC48)	再発危険因子を有する ハイリスクstage II 結 腸癌切除例に対する術 後補助化学療法として のmFOLFOX 6 療法、 またはXELOX療法の 至適投与期間に関する ランダム化第III相比較 臨床試験 JFMC48- 1301-C 4 (ACHIEVE- 2 Traial)
力山敏樹	(公財) 地域社会振興財団 地域社会健康科学研究所研究費	循環腫瘍細胞 (CTC) を用いた切除不能・再 発胃癌における免疫 チェックポイント阻害 剤の治療効果予測因子 の検討
鈴木浩一	文部科学省 科学研究費助成 事業 学術研究助成基金 助成金基盤 (C)	染色体不安定性を標的 とした薬剤耐性の克服

齊藤正昭	文部科学省 科学研究費助成 事業 学術研究助成基金 助成金基盤 (C)	胆汁酸逆流モデルによ る食道胃接合部癌発癌 におけるエピゲノム異 常の網羅的解析
渡部文昭	文部科学省 科学研究費助成 事業 学術研究助成基金 助成金基盤 (C)	DNAの異常低メチル 化とリキッドバイオプ シーを組み合わせた肺 癌早期発見
阿部 郁	文部科学省 科学研究費助成 事業 研究活動スタート 支援	酸曝露が誘導する脱メ チル化異常と染色体不 安定性を介したBarrett 食道癌のメカニズム

5) 基礎研究、臨床研究

【基礎研究】

(1) 発癌リスクとゲノム損傷

- ①癌発症の予測や早期診断、多発癌発生のメカニズムの解明
- ②薬剤感受性
- ③転移浸潤能の獲得
- ④胃食道逆流症を背景とした食道胃接合部癌の発生

(2) ゲノムプロファイルの血中モニタリング (Liquid Biopsy)

- ①循環腫瘍DNA
- ②血中循環腫瘍細胞

(3) 大学院研究

- ①大腸癌術後補助化学療法の治療効果予測に有用なバイオマーカーの検討
- ②循環腫瘍細胞の解析による血液モニタリングの実用化に関する研究
- ③腸管上皮細胞制御および腸管粘膜傷害におけるガスダーミンの役割の解明

【臨床研究】

臓器横断的

- ①合併症低減を目指した消化器外科術後腹部正中創の創閉鎖法の開発
- ②生理食塩水を用いた術中高圧創洗浄の消化器外科術後創感染低減効果の検証

上部消化管外科（食道・胃）

- ①食道癌に対する根治的化学放射線療法 (dCRT) の効果と予測因子
- ③食道鏡視下手術再手術に関する全国実態調査
- ④胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡下手術法：全層局所切除 -non touch method- の有用性
- ⑤日本胃癌学会研究推進委員会のプロジェクトへの参画
- ⑥胃癌周術期の予防的抗菌薬投与に関する検討
- ⑦非治癒因子を有する胃癌に対する導入化学療法+手

術の予後に及ぼす効果についての検討

- ⑧食道胃接合部癌に対する至適術式の検討
- ⑨cStage II、III胸部食道癌における術後再発を予測する臨床病理学的因子の検討
- ⑩胃癌術前手術難易度の予測としての腹腔内脂肪量測定の意義と簡便法の開発
- ⑪HER2発現別の2次化学療法の治療効果の検討
- ⑫Flotracを用いた腹臥位胸腔鏡下食道切除における人工気胸法の安全性の評価
- ⑬胃癌におけるFGFRの異常に関する解析研究(FGFR-GC study) —多施設共同研究
- ⑭酸曝露が誘導する脱メチル化異常と染色体不安定性を介したBarrett食道癌のメカニズム
- ⑮胆汁酸逆流モデルによる食道胃接合部癌発癌におけるエピゲノム異常の網羅的解析

下部消化管外科（大腸・肛門）

- 下記を含むJCOG臨床試験に参加中である。
- ①JCOG1805「再発リスク因子を有するStage II大腸癌に対する術後補助化学療法の有用性に関するランダム化第III相比較試験」
 - ②JCOG2207「臨床病期IIIの下部直腸癌に対するtotal neoadjuvant therapy (TNT) および選択的側方リンパ節郭清の意義に関するランダム化比較第III相試験」
 - ③JCOG2304「進行横行結腸がんに対する結腸部分切除術の有用性に関するランダム化第III相試験」
- 下記を含む多施設共同研究に参加中である。
- ①SECLET試験「腹腔鏡下右側結腸切除の安全性に影響を与える因子に関する前向き観察研究」
 - ②「Stage II大腸癌のハイリスク因子に関する前向き観察研究」

肝胆脾外科

- ①肝門部胆管癌に対する術式および術前術後管理の工夫
 - ②脾癌のLiquid biopsyの研究
 - ③脾癌および胆道癌に対する集学的治療成績の検討
- 多施設共同臨床研究
- ①T因子に基づく胆囊癌における最適手術範囲と手術方法の検討
 - ②術前補助化学療法後の脾癌手術における至適リンパ節郭清範囲を決定するための前方視的介入研究
 - ③術前補助化学療法（NAC-GS）を施行した解剖学的切除可能脾癌における術後早期再発の予測因子を検討する全国多施設後方視的検討
 - ④脾頭部切除における肝動脈合併切除の後方視的症例集積研究
 - ⑤生殖細胞系列BRCAバリアント脾癌症例の疫学・遺伝情報の研究 – 家族性脾癌登録制度全国調査 –
 - ⑥腹腔洗浄細胞診陽性脾癌に対する全身化学療法の有

効性を検証するための多施設共同第II相試験

乳腺・内分泌外科

- ①FDG-PET/CTと乳癌組織、甲状腺腫瘍の病理学的特性との比較検討
- ②造影超音波検査およびエラストグラフィによるセンチメルリンパ節、乳腺、甲状腺腫瘍の画像診断の検討
- ③乳腺甲状腺そして副甲状腺における細胞診の有用性

小児外科

- ①胆道閉鎖症全国登録事業-胆道閉鎖症の年次登録と予後追跡調査による疫学研究-
- ②胆道閉鎖症におけるビタミンK製剤投与法がビタミンK欠乏性出血症に与える影響に関する疫学研究
- ③術前データによる胆道閉鎖症手術成功率の層別化と一次肝移植適応基準作成のための多施設共同後方視的調査研究
- ④小児期、とくに新生児期における臍部ストーマ造設症例の後方視的調査研究

6. 業績（論文・学会・講演）

- 英文論文：20編（前年度18編）
 邦文論文：2編（前年度5編）
 國際学会発表：4件（前年度3件）
 国内学会発表：71件（前年度67件）
 講演：13件（前年度10件）
 著著：2編（前年度1編）

7. 目標の達成度、来年の目標

術後合併症ゼロを目標に、安全な手術・周術期管理を心がけてきた。手術支援ロボットを用いた低侵襲手術の導入・適応拡大など、今後も患者満足度が高く、質の高い外科治療を行っていきたい。化学療法分野では、がんゲノム医療の技術・知見を積極的に活用し、患者ごと腫瘍ごとの遺伝子変異や臨床的特徴に沿った薬物療法の提供を目指している。また、教育機関として若手外科医のトレーニングについても積極的に取り組み、治療手技と責任感の向上を図っている。